

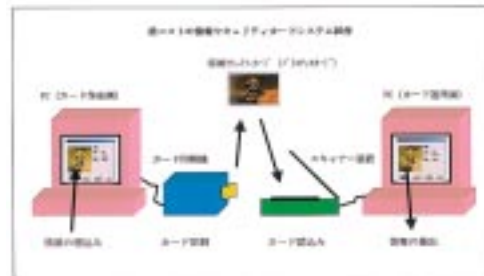
低コストの情報セキュリティカードシステムのモデル化

企業 / 株式会社 エーエスエー・システムズ

研究者 / 河口英二（九州工業大学工学部教授）

脇山正博（北九州工業高等専門学校助教授）

松永純一（財団法人飯塚研究開発機構研究開発部長）



低コストの情報セキュリティカードシステム試作

紙面やカード表面上の印刷画像や絵柄を利用する電子あぶり出し技術を開発し、記憶媒体を必要としない新しい情報セキュリティカードシステムをモデル化した。この技術の特徴は、非常に低コストで且つ不正使用や偽造が殆ど不可能な各種カードシステムを実現できる点であり、これまでに無い情報セキュリティ技術である。

本モデル化は、九州工業大学で開発された「電子あぶり出し技術：BPCS-Steganography」を用いて、「メモリを持たない通常のプラスチックカード」上の印刷画像に、「認証情報・個人情報等」を埋め込んでおき、必要に応じて情報を取り出せるシステムを試作するものである。低コストとなる理由は、記憶媒体に従来のICメモリや磁気テープを用いず、印刷画面そのものを利用する点にある。

既にカード社会が到来しており、カードの不正使用や、偽造によるカード会社や所有者の被害は大きな社会問題となっている。本技術は、この問題を「メモリ装置を持たない普通のカード画面」を媒体とする電子あぶり出し技術によって解決しようとするものである。このような情報技術は国内外を通じて全く類例が無く、従って、本モデル化は現在の各種カード及びカードシステムの産業分野に新しい需要を生み出す可能性が高い。

従って、モデル化の成果が実用化されると、安全でかつ低コストの情報セキュリティカードシステムが実現されることになり、今後のカード社会に大いに貢献できるものと考ええる。